



# カーボンニュートラルシティを宣言

## 2050年までに温室効果ガス排出の実質ゼロを

市は、市民や事業者と共に地球温暖化対策への取り組みをより一層進めていくため、10月5日(火)の市議会全員協議会で、カーボンニュートラルシティを宣言しました。

2050年までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指し、脱炭素の持続可能な社会を目指します。

☎生活環境課 995-1816



### ■カーボンニュートラルシティ

カーボンニュートラルシティは、環境省が呼びかけている取り組みで、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを指し、首長自ら、または自治体として公表した地方自治体のことを指します。

### ■温室効果ガス排出の実質ゼロ

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林などの吸収源による除去量との間の均衡を達成することです。2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会を実現することが日本の目標となっています。

### ■カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

令和3年3月に第2次市環境基本計画(後期計画)を策定しました。計画の第5章地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)では、6つの重点取り組みを掲げています。

#### 《重点取り組み》

- ・再生可能エネルギーを普及させる
- ・省エネルギーを推進する
- ・環境負荷の少ない交通を普及させる
- ・集約したまちをつくる
- ・まちの緑を増やす
- ・6Rを推進する

## 裾野市「カーボンニュートラルシティ」宣言

気候変動は、私たち一人ひとり、この星に生きるすべての生き物にとって避けることのできない、喫緊の課題です。

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界規模で、自然災害が頻発、激甚化しています。

こうした気候変動は、私たちの生命や財産をおびやかすだけでなく、自然環境や生態系への悪影響など、もはや人類だけでなく、全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言うべき、極めて深刻な事態となっています。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。

さらに2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い、1.5℃に抑えるためには、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることが必要」とされています。

富士、愛鷹、箱根山麓に位置し、「富士山のすその水・緑・人を共に育てるまち」を環境像に掲げる裾野市は、国際社会の一員として、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラルシティ」の実現に、市民や事業者と一丸となって挑戦します。

令和3年10月5日  
裾野市長 高村 謙二